

わが国初期の新聞紙
本学図書館に所蔵

日本最初の新聞はいつ頃現れたのか この質問の答えはいくつもある。

日刊新聞の登場は明治三年十二月、西暦で言えば一八七一年一月に創刊された『横浜毎日新聞』（現存する毎日新聞の前身ではない）。しかし、同紙は日本人による最初の日刊紙とは言えるが、それ以前に既に相当数の新聞が長崎、神戸、東京（江戸）で発行されていたのである。

ここでいう新聞とは活版印刷で刷られ、有料、販売店をもち、広告を掲載するといった近代新聞の要素をもったものである。その意味で邦字ではなくとも、長崎で一八六一年六月に英人W・A・ハンサードによ

って創刊された週刊英字紙『長崎シッピング・リスト & アドバタイザー』がわが国の新聞の嚆矢とも言える。そしてわずか数か月後には蕃所調所が翻訳、編集した『官板バタヒヤ新聞』が発行され、また米国に最初に帰化した日本人として知られているジョセフ・ヒコ（浜田彦蔵）は一八六五年、日本最初の民間新聞と言われる『海外新聞』を創刊した。

R・ブラックの『ジャパン・ガゼット』ばかりでなく、銀行員あがりのリツカビイの『ジャパン・タイムズ』や経済専門の『ジャパン・コマーシャル・ニューズ』などは『日本新聞』『日本貿易新聞』といった題号で翻訳、翻刻された。

興味深いのは、ハンサードは英国の名門印刷職人一族の末裔にあたり、ニューヨークランド経由である日突然日本に現れたことや、ゴールドラッシュのオーストラリアで夢破れたブラックら、奇怪な外国人たち。「ポンチ画」を日本にもたらしたC・ワーグマンの『ジャパン・パンチ』の風刺画も面白い。

（上智大学通信 第二九三
号 二〇〇三年七月一五日
号 頁掲載）